

事務事業シート(実施計画事前基礎シート)

(H.27)No.	1158	(H.26)No.	1158
-----------	------	-----------	------

事務事業名	中学生地域ふれあい事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
教育委員会事務局	学校教育室	雪岡正明	

会計区分	事業コード	481501
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款	教育費	中学生地域ふれあい事業
項	中学校費	(小事業名)
目	教育振興費	中学生地域ふれあい事業

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	4	心豊かな教育と文化に包まれた、ゆとりある暮らし
	基本政策	1	生きる力をはぐくむ教育の充実
	施策	1	学校教育
	小施策	2	義務教育
重点施策コード	3-8.高等教育との連携強化		

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
自分の将来の生き方や進路を模索し始める中学生を対象にして、職場体験活動を地域ぐるみで実施し、生徒の望ましい職業観、生徒の個性の伸長を図ります。
事業内容
生徒自身が、望ましい職業観を身につけ、自分の生き方を考えるために、職場体験学習を実施します。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

主な事業の実績・計画	H.26年度(事業量・取組実績)	H.27年度(事業量・取組計画)	H.28年度(事業計画)	H.29年度(事業計画)	H.30年度(事業計画)
		6月～11月の間に、市内全5中学校で、3日ずつ職場体験学習を実施。 名張中学校3年160名:195千円 赤目中学校2年147名:184千円 桔梗が丘中学校3年87名:130千円 北中学校3年153名:184千円 南中学校2年105名:147千円	6月～11月の間に、市内全5中学校で、3日ずつ職場体験学習を実施。 名張中学校3年153名:179千円 赤目中学校2年146名:173千円 桔梗が丘中学校3年118名:152千円 北中学校3年178名:200千円 南中学校2年96名:136千円	6月～11月の間に、市内全5中学校で、3日ずつ職場体験学習を実施。	6月～11月の間に、市内全5中学校で、3日ずつ職場体験学習を実施。

	H.26年度(決算見込)	H.27年度(作成時予算額)	H.28年度(計画予算)	H.29年度(計画予算)	H.30年度(計画予算)	
①直接事業費	840千円	840千円	840千円	840千円	840千円	
内訳(千円)	国・県支出金					
	地方債					
	その他()					
	一般財源	(0) 840	840	840	840	840
人工数	職員	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人
	臨時職員等	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人
②概算人件費	(0千円) 392千円	392千円	392千円	392千円	392千円	
①+②総事業費	(0千円) 1,232千円	1,232千円	1,232千円	1,232千円	1,232千円	

4. 担当室による事務事業の点検 (*点検等による成果向上や見直しに困難な事業(法令等による義務的経費、災害復旧等緊急事業などは点検対象外)

考察(H.26年度の取組評価、課題)	今後の対応方針(課題解決への取組、工夫・改善の内容)
・地域や企業・関係機関の協力により、生徒自身が望ましい職業観を身につけ、自分の生き方を考えることができました。 ・事業所までの交通手段の確保や交通費の負担などが課題となっています。	協力いただく事業所の拡大を図るために、各校の職場体験学習の期間が重なることのないよう、早い段階で事前調査を行い、日程調整を行う必要があります。

点検項目	内容(施策達成への貢献内容、連携・協働の実践・検討内容)
(1) 事業内容や取組成果は、総合計画の施策達成に貢献しているか A(2つ以上の施策指標達成に貢献又は基本方針達成に特に貢献)	子どもたちが「学ぶこと」と「働くこと」を関連づけながら、望ましい職業観、勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけるために有効であり、「自ら学び、考える力を育てる教育」に貢献しています。
(2) 地域づくり組織、市民活動団体等との連携・協働は図れないか 検討している・今後可能性がある(※検討内容を記載→)	協力事業所の拡大には地域づくり組織等からの紹介は有効な手法のひとつであり、協力を呼びかけていきたい。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
具体的な見直し内容・検討内容、継続の理由	6. 事務事業の取組に関する主な市の計画 ・名張市次世代育成支援行動計画 ・名張市子ども教育ビジョン
職場体験学習を体験に終わらせるのではなく、キャリア教育の一貫として位置づけ、生徒の将来を見据えた学習として継続していきます。	